

はしがき

今回の『言葉と文化』第9号には20編の論文が掲載されている。その内、「文化」に関するものが9編で、「言葉」に関するものが11編である。いずれも力作で指導を担っている教員にとっては喜ばしいかぎりである。

今年度は当研究科にとって大きな変革の年であった。それは「認証評価」との関係で、従来の当研究科の在り方を根底から揺るがすもので、正直なところ、当研究科の構成員すべてに問われた課題で、それらを解決すべく皆が一丸となって対処する一年であった。とりわけ研究指導體制の見直し、充実化など多くの点で再構築が求められ、その都度最良の方策を検討し、研究科の「内規」として作成あるいは改正という形で纏める一年であった。研究科長の言葉を借りれば、まさしく「教育改革の年度」であったと言える。

しかし、今これらの作業の過程を振り返ると、多方面で当研究科はより良い方向に向かいつつあると確信できる。とりわけ学生達への研究指導の充実化が今後より顕著に表われることを期待するが、その成果の一つの形は他でもないこの『言葉と文化』であり、学位論文への重要なステップの一つである。学生の皆さんには、今後、今以上に指導教員との連絡を密にし、有益な助言を受け、論文作成に活かしてほしいと切に願うものである。

最後にこの場をかりて、ご多忙の中、査読を引き受け、懇切丁寧にご指導して下さった先生方に深く感謝の意を申し述べます。

2008年2月15日

『言葉と文化』第9号
編集担当（専攻長）
大庭 正春

執筆者一覧（掲載順）

王 勇 萍	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
SETH ^{セート} Rajdeep ^{ラジヤデーブ}	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
田 云 明	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
Agnese Haijima	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程満期退学
王 閏 梅	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
香 川 由 紀 子	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
許 時 嘉	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
孫 峰 茗	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
頼 鈺 菁	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
杉 村 泰	国際言語文化研究科日本語文化専攻准教授
サウエットアイヤラム・テーウイット	
	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
張 善 実	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
金 春 女	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
陳 相 州	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
朴 仙 花	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
呂 雷 寧	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
有 蘭 智 美	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
許 永 蘭	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
三 木 理	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程
東 会 娟	国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程

目 次

[研究論文]

王 勇 萍	生活環境から見る日本人の価値観の変容 —居住地の選択行為を中心に—	1
SETH <small>キート</small> Rajdeep <small>ラジディープ</small>	夏目漱石『吾輩は猫である』第三章を読む —名前のない猫と登場人物—	17
田 云 明	『方丈記』の白楽天詩文撰取に見られる 中国隠逸思想の変容	33
Agnese Haijima	雪舟絵画に見られる太湖石のモチーフとその意味 —雪舟筆「四季山水図巻」を中心に—	53
王 閏 梅	梁啓超の『新中国未来記』について —兆民の『三酔人経綸問答』と対照させて—	71
香 川 由 紀 子	女学生の絆 —明治二十年代の『女学雑誌』掲載小説を通して—	89
許 時 嘉	国語としての日本語から言語としての日本語へ —戦前から戦後に至るまでの台湾人の日本語観に関する一考察(1895~1946年)—	105
孫 峰 茗	『婦女新聞』に見る明治日本の家政学	127
頼 鉦 菁	『葉隠』における武士の衆道と忠義 —「命を捨てる」ことを中心に—	147
杉 村 泰	教育文法の立場から見た複合助辞 「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」の誤用分析	167
サウエットアイヤラム・テーウイット	タイ人日本語学習者の受身の習得	187
張 善 実	漢語動詞の二格構文に関する誤用調査 —中国人日本語学習者を対象に—	205
金 春 女	連体節表現における焦点について	221
陳 相 州	日本語会話データに見られる対比談話標識の使用実態	237
朴 仙 花	現代日本語における接続助詞で終わる言いさし表現について —「けど」「から」を中心に—	253
呂 雷 寧	無意志自動詞の可能表現に関わる要因の分析 —意志性・主体性・事態の性質を中心に—	271
有 蘭 智 美	「顔」の意味拡張に対する認知的考察	287
許 永 蘭	「切る」の多義分析	303
三 木 理	韓国語を母語とする日本語学習者の 「これじゃない」の発話意図とイントネーション —音響分析と聴取に基づく考察—	321
東 会 娟	中国人上級日本語学習者の縮約形の使用状況	343